

## 会議報告

会議名称	「元気な入間」まちづくり推進・協働ガイドライン策定会議 第14回会議
開催日時	平成19年12月17日(月) 午後2時00分～4時40分
開催場所	市民活動センター 3階 活動室1
出席委員	渡部直也・鳥山政之・岩崎廣司・太田恵子・岡野 亘・亀谷容子・ 北田尚美・斎藤次雄・関谷佳代子・清水英弥・清水洋行・中澤 岳・ 原口喜代美・堀夫紗子・文字山啓子  以上15名
欠席委員	瀧澤良生・宮岡利幸 アドバイザー犬塚裕雅
傍聴人	無し
事務局	齋藤主幹(司会)・西澤主査
会議の概要 及 び 決定事項	<p>1. 開会</p> <p>2. 会長あいさつ</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) ガイドラインの骨子作成について</p> <p>(2) その他</p> <p>[主な内容]</p> <p>○ 渡部会長 先日実施したワークショップでは、参加された方たちが、いろいろな意見を持っていることがわかった。</p> <p>議事</p> <p>○ 鳥山副会長 これから本格的な草案の作成になると思う。ワークショップで意見をもらいながら、また皆さんの感じたことなどを話し合っていたきたい。当面の目標としてどのレベルでガイドラインを仕上げるか。など本日の手順の説明。</p> <p>○ 渡部会長から資料をもとに説明 ◇ 「概要報告書」「参加者の感想」要点を抜粋。</p> <p>○ ワorkshopを終えて、委員の得たもの感じたことの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (概要報告書の) 新しい支出方法を創設する必要があるか、という話の内容を知りたい。</li> <li>・ この文では2人の意見が一つにまとめてある。</li> </ul>

・一つは、いくら提案しても「予算がない。」という理由で断られる。「提案制度と平行して予算措置できるシステム」を作っていないといけない。という話。もう一つはそれに対して「現状予算制度で対応できるのかどうか」という観点から新しい予算科目が必要ではないか、という話が出た。

・20年度予算では措置できるのか。

・事務局-20年度では対応予算がない。21年度に向けて、予算だけでなく対応方法を含めて20年度に話を進める予定。

・すでに協働は行われている実態があるので、細々でも作っていく必要がある。

☆協働への距離が遠い気がする。ズレについてはどうか。

・意識を持っている人が少ない。

・現実に市は協働を進めているが、我々とは違うこと。

・実例とガイドラインはリンクさせなければいけない。

・市民は「なぜ協働するのか」について、どう思っているのか。お金の節約のためと思っているか。(自分たち活動団体はお金の事ではない)

・(自分たちは)最初からコストダウンではなく、自分たちの力を行政にいかしたい。ガイドラインを作ることによって統一規格を作りたい。

・まだ「協働」の認知度は高くない。もっとわかりやすいもの、ズレを考えておかないと。

・良質の力、行政と一緒にプラスアルファの力を発揮していこうというもの、お金が必要なもの、そうでないもの、個人の経験値で実施されている。

・第1章から第4章は大方良いと思うが、第5章まで一通り揃ったところで、全体として調整しないといけない。

・「現状と課題」の形態は、今ある事業を協働に置き換えるのではなく、「協働における委託はこうだ」というようにしないと。

「今ある委託がすべて協働」という訳ではないということを明確に。

・ワークショップの感想でも具体例があると良いという意見があったが、現状のところでも例があったほうがわかりやすい。

・協働の概念と、協働事業は違う気がする。概念は今まで何度も話しをしてきているが、事業については出てきていない気がする。例を出せば何が協働事業か、掴みやすいのでは。

・全部は挙げられないが、出てきたものを精査していかないと。

・庄嶋氏の話で、仕分け作業(行政、市民、協働とふさわしい事業を分けて考える)をすると進めやすい。

・市民側ではどうか。

- ・難しい。時給単価がどうかとか具体的なわかりやすい部分もあるが、話が複雑になる。
- ・まちづくりのために協働するという意識が必要。何でも一緒にやれば「協働」ではなく、目的は「まちづくり」であるということ。
- ・協働は、地域課題の解決のための目的にかなった事業であるかどうか。
- ・行政側の協働事業の仕分けできるものは。
- ・協働事業がどういったものか、示すところが必要。ワークショップではイベント的なものと事業的なものとして分けていた。
- ・人件費や管理費など、市民活動の中にあるお金のことも少しずつ出していく必要もあるのかなと思う。
- ・団体活動には少なからずコストがかかるが、お金の話が先にいってしまうと分かりづらくなってしまう。
- ・協働の中にもお金のかかるもの、かからないものがある。まちづくりの課題解決のために市民、行政双方が合意したものならば協働になると思う。

○ ガイドラインの到達点について

☆今後について

- ・(第3部会から)課題に対して解決策、等全部(11項目)示せるかわからないが、1月の策定会議かその次には提案したい。

☆どのような手順でまとめるか。

- ・地域やワークショップで話し合うような、意識啓発から始めて、提案事業等細かいところには触れられないのかなと思う。
- ・提案事業でも「形態」の中(委託や後援で行うなど)該当するものも出てくると思うが、提案事業と形態は分けて考えるべき。窓口も必要。
- ・具体的などころで行くよりも、解り易い形で外に向けて話をする(啓発)材料とするのがよいのではないか。

○ 各部会のスケジュール

- ・第3部会の素案を見ないと話しづらい。手分けして第3部会をフォローしてスピードアップしてもよいのでは。
- ・第3部会として他の部会の人に早く提示できるよう頑張りたい。

☆各部会で会議の必要性は?

第1部会--- 一通り形はできているので、第3部会までできてから。

第2部会--- 特に年内は必要なし。

年明けに、協働事業の具体化として、事務局と連携して、全庁的な具体例調査をして、フィードバックできれば。

第3部会--- 年内に1回。年明けに。

	<p>☆その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行財政に関する市報記事について、「協働をコストパフォーマンスにしようとしているのではないか。」との意見をもらったが、策定会議との意見のズレを感じた。それを打破するために、ここ（策定会議）が何かを訴えていかないと。</li> <li>・市には協働を後押しする姿勢が必要。（人・金・もの・場所）</li> <li>・自分たちのまちを良くするという意識を全体で持たないと。ガイドライン等で発信して、ルール等のきっかけ作りにしたい。市民にもそういう意識が必要。市民サイドでも事業評価を作っていないと。</li> <li>・コストダウンが主でなく、行政主体から市民主体に変えていく必要がある。</li> <li>・結果としてコストダウンになれば良い。</li> <li>・お金で計れないもの、人材。入間市でももっと継続して活動してくれる人材を確保、育成していく必要がある。</li> </ul> <p>☆今後のスケジュール</p> <p>平成20年1月28日(月) 19時から  平成20年2月18日(月) 14時から  平成20年3月17日(月) 14時から</p> <p>4. 閉会</p>
<p>議事のでん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。</p> <p>平成 年 月 日</p> <p style="text-align: center;">会 長 _____</p>	